

動物を通して「鹿児島らしさ」を伝える

○落合祐子，落合晋作，浅井隆之，桜井普子，福守朗
(鹿児島市平川動物公園)

鹿児島県は南北 600 km にわたり，温帯から亜熱帯の気候帯に属するため多種多様な生物がみられる．当園では「南国鹿児島らしい特色ある動物公園」をテーマに掲げ，ルリカケスの生息域外保全やアマミノクロウサギの傷病個体の飼育に積極的に取り組み，普及啓発に着手してきた．一方で幕末から明治維新にかけて活躍した薩摩藩士，「動物文学」というジャンルを築き鹿児島の自然についての作品も多い椋鳩十など，文化的な観光資源にも恵まれているが，これらを主体としたイベントを実施したことはなかった．今回鹿児島の特色ある資源と動物を関連づけたイベントの実施を試みたので，紹介する．

【①椋鳩十を読む～野生動物と私たちの関係を考えよう！～ (2018 年 8 月実施)】

夏休みの宿題の参考となる題材を提供するイベントの第一弾として実施した．椋鳩十の作品紹介，鹿児島を中心に野生動物の調査を行っている獣医師を講師として招き，野生動物と人間がどのように関わっていくのかを考えてもらった．参加者は 22 名であった．

【②鹿児島の竹林面積は日本一！～竹について調べよう！～ (2018 年 8 月実施)】

①と同様で第二弾として実施した．鹿児島市竹工芸振興組合の方を講師として招き，モウソウチクは薩摩藩が琉球から移植して全国に広まったことなど，鹿児島と竹の関係を聞き，竹笛を作製してもらった．参加者は 35 名であった．

【③明治維新 150 周年企画 西郷どんが出会った！？動物たち (2018 年 4 月より実施)】

西郷隆盛の足跡を辿ったパネル及び生体展示を実施中である．11 月 11 日には「ワンワン！の日」として，飼育員によるイヌ科動物のお話及び西郷南洲顕彰館の館長を講師として招き，「西郷隆盛が共に過ごした動物たち」と題した講演会の実施を予定している．

イベント①②に関しては，参加者は動物園とのつながりを実感することが難しかったようであった．来園者がイメージを持って参加し理解を深めることができるよう，ワークシートや工作物及びタイトルを工夫し，今後も様々な分野からアプローチした鹿児島らしさを伝えるプログラムに取り組みたい．